TAKADA

令和9年3月期

第２四半期（中間期）決算説明資料

令和8年11月6日



株式会社 高田工業所

（証券コード：1966）

目次 CONTENTS

01 令和9年3月第2四半期（中間期）決算概要 P3

02 令和9年3月期 業績予想 P13

03 Appendix P16

04 Topics P25



01 令和9年3月期第2四半期（中間期）決算概要

FINANCIAL RESULTS OVERVIEW

01 令和9年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

当期 業績（連結） 前期比【増収増益】

■ 売上高：化学プラントにおける定期修理工事および製鉄・化学プラントにおける建設工事の増加に伴う増収

9.8%増

■ 損　益：売上高の増加およびコスト削減、ならびに請負価格への適正な反映による採算性の向上に伴う増益

220.6%増※

※親会社株主に帰属する中間純利益

【連 結】

（単位：百万円、率は対前期増減率）

	前期（R7.9）実績 (a)	当　期（R8.9）		前期比 (b) - (a)		
		予 想（R8.10.29）	実 績 (b)	金 額	増減率	
売　上　高	25,359	28,060	**27,843**	2,483	9.8	2期ぶりの増収
営　業　利　益	254	930	**938**	684	269.2	2期ぶりの増益
経　常　利　益	194	760	**759**	565	290.2	2期ぶりの増益
親会社株主に帰属する中間純利益	140	420	**451**	310	220.6	3期ぶりの増益
包　括　利　益	226	―	**378**	151	67.2	
1株当たり中間純利益	19.25円	57.39円	**61.75円**	42.50円	220.8	

令和9年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

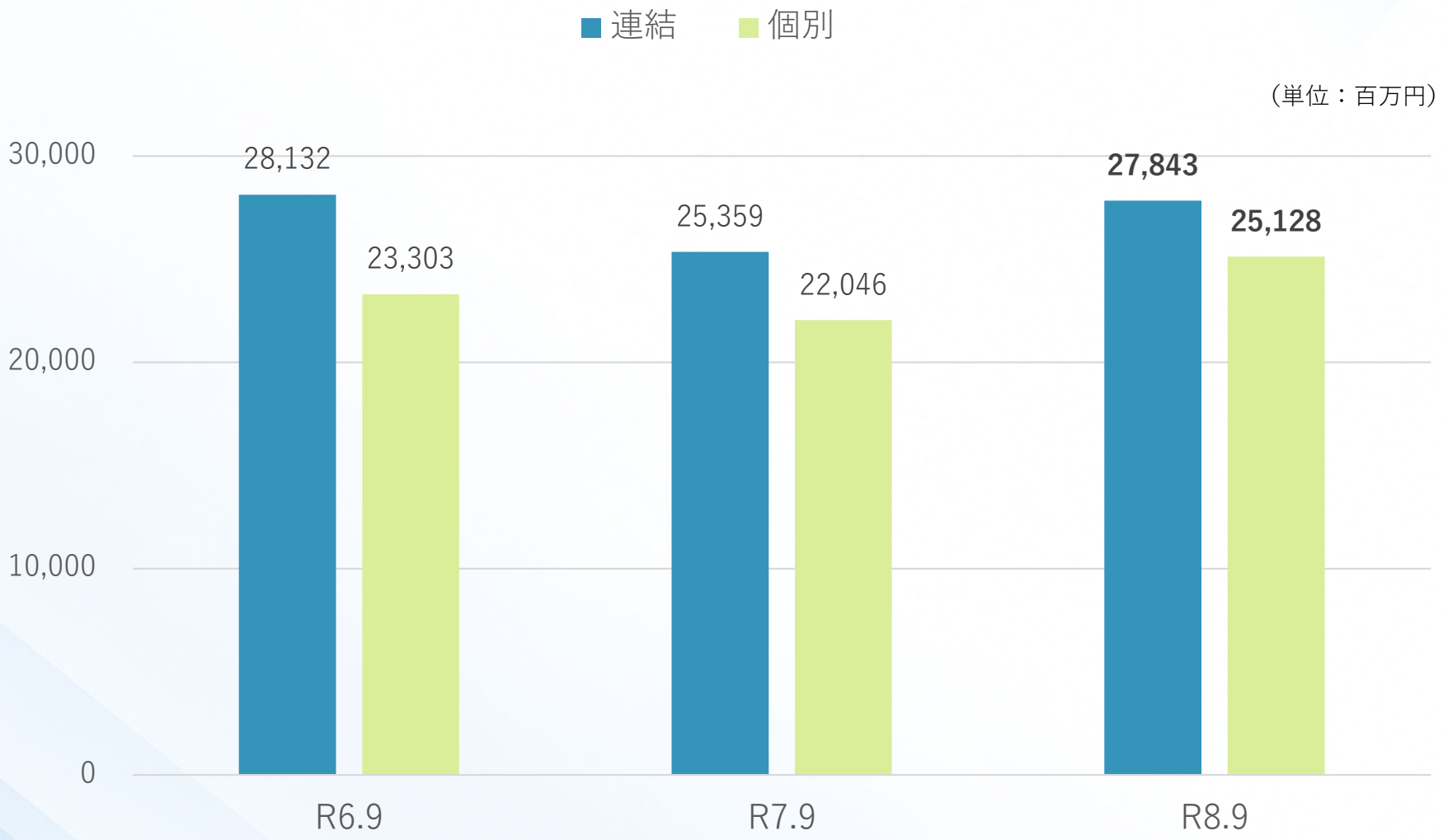
当期 業績（個別） 前期比【増収増益】

【個 別】

（単位：百万円、率は対前期増減率）

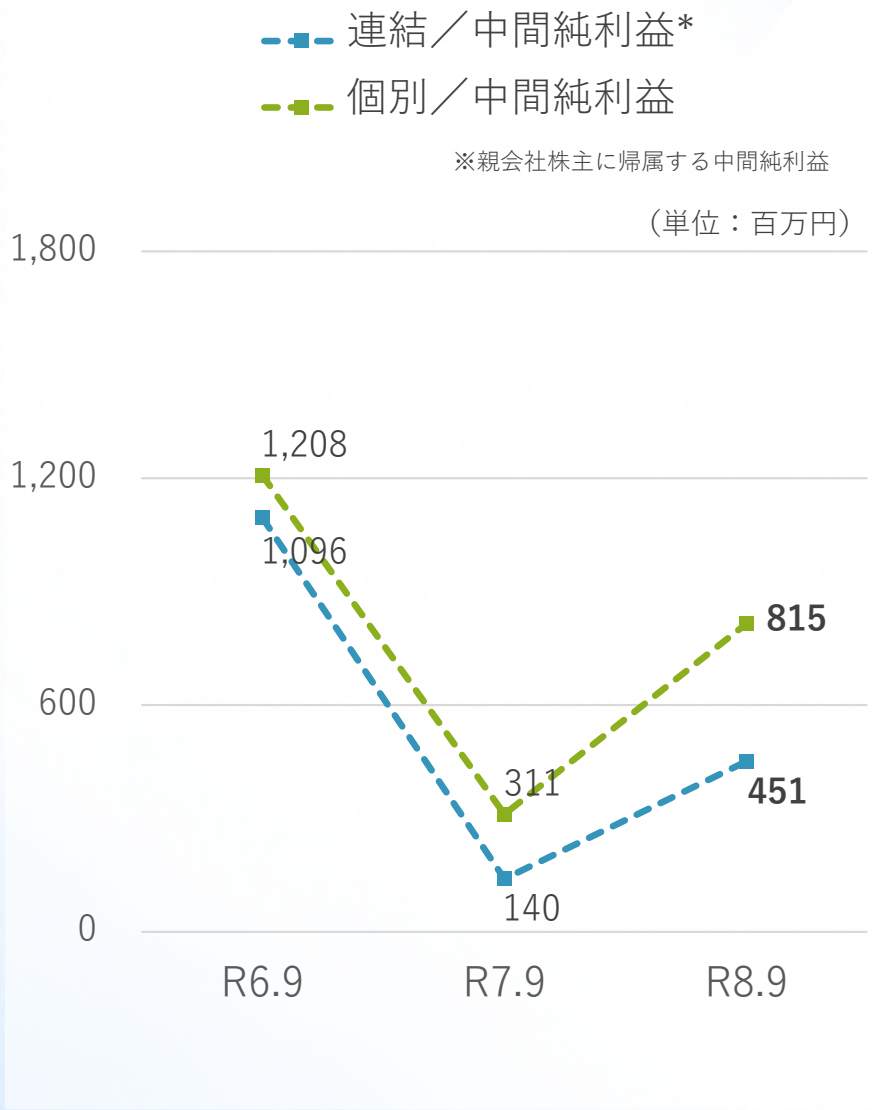
	前期（R7.9）実績 (a)	当 期（R8.9）		前期比 (b) - (a)		
		予 想（R8.10.29）	実績 (b)	金 額	増減率	
売 上 高	22,046	25,120	25,128	3,081	14.0	4期ぶりの増収
営 業 利 益	295	1,080	1,081	785	266.1	2期ぶりの増益
経 常 利 益	390	1,060	1,065	674	172.6	2期ぶりの増益
中 間 純 利 益	311	810	815	504	161.9	2期ぶりの増益
1株当たり当期純利益	42.54円	110.68円	111.49円	68.95円	162.1	

売上高 業績推移（過去３か年）



利益 業績推移（過去３か年）

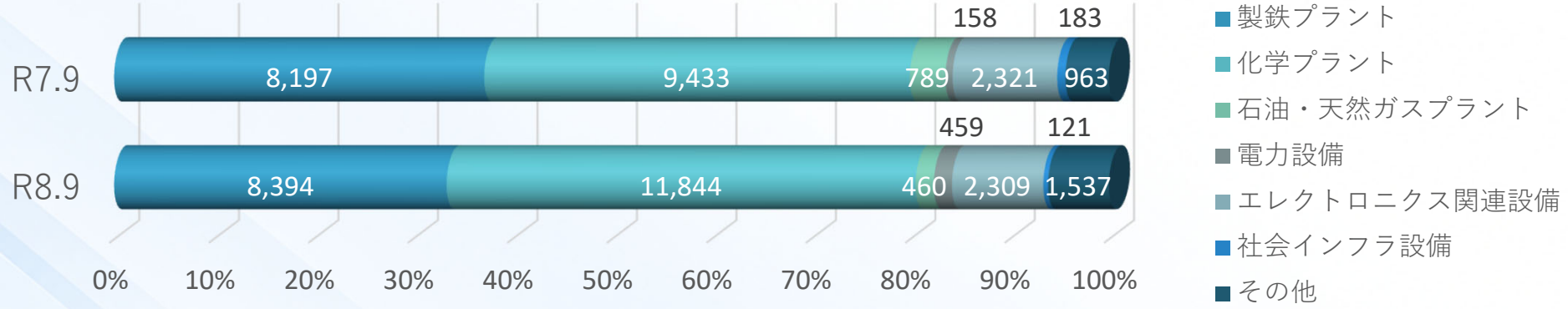




売上高 工事種別（個別） 前期比

（単位：百万円）

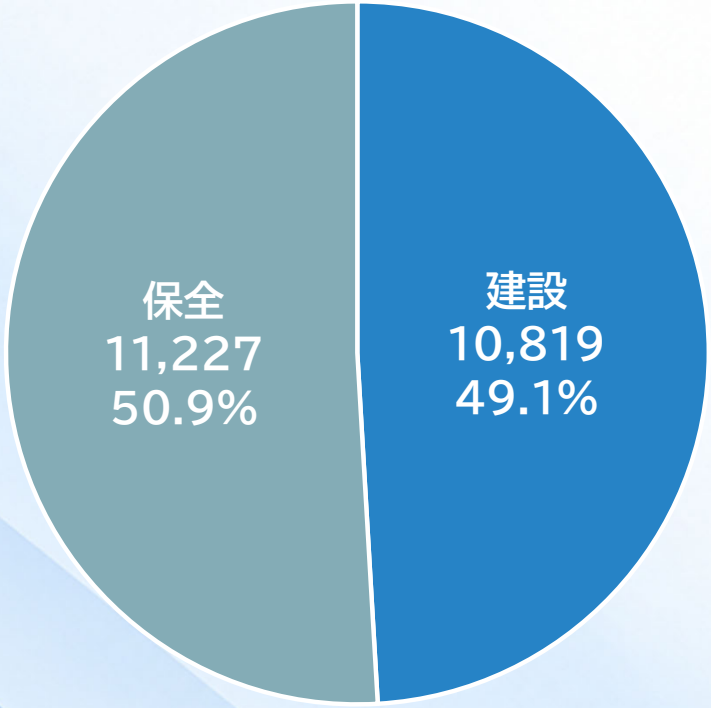
	R7.9		R8.9		増減(R8.9-7.9)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
製 鉄 プ ラ ン ト	8,197	37.2	8,394	33.4	197	2.4
化 学 プ ラ ン ト	9,433	42.8	11,844	47.2	2,411	25.6
石油・天然ガスプラント	789	3.6	460	1.8	△ 329	△ 41.7
電 力 設 備	158	0.7	459	1.8	301	189.6
エレクトロニクス関連設備・装置	2,321	10.5	2,309	9.2	△ 11	△ 0.5
社会インフラ設備	183	0.8	121	0.5	△ 61	△ 33.5
そ の 他	963	4.4	1,537	6.1	574	59.7
合 計	**22,046**	**100.0**	**25,128**	**100.0**	**3,081**	**14.0**



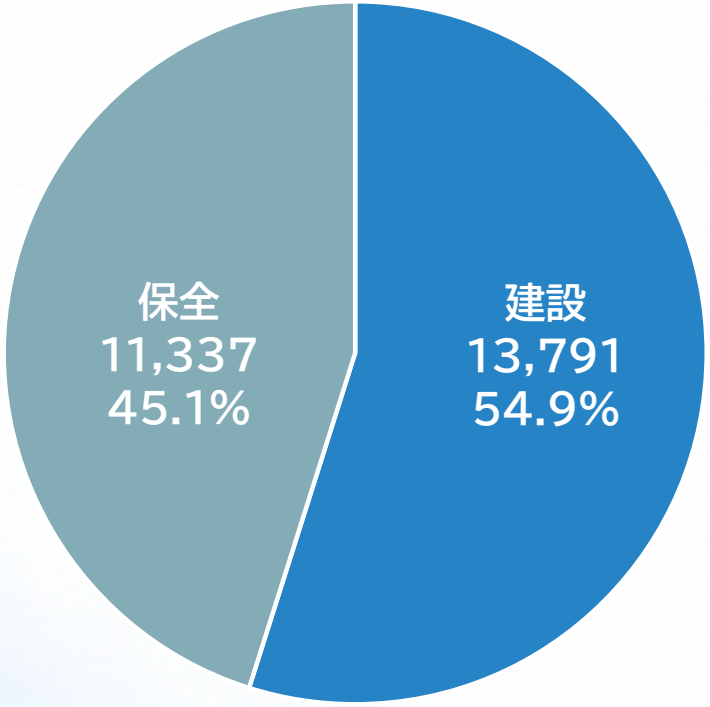
売上高 プラント建設・保全別（個別） 前期比

（単位：百万円）

R7.9



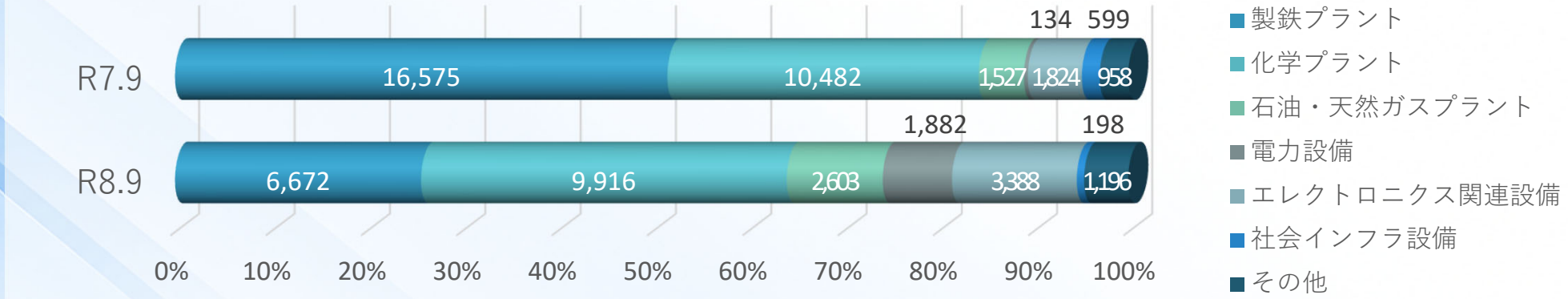
R8.9



受注高 工事種別（個別） 前期比

（単位：百万円）

	R7.9		R8.9		増減(R8.9-7.9)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
製 鉄 プ ラ ン ト	16,575	51.6	6,672	25.8	△ 9,903	△ 59.7
化 学 プ ラ ン ト	10,482	32.6	9,916	38.3	△ 565	△ 5.4
石油・天然ガスプラント	1,527	4.8	2,603	10.1	1,075	70.4
電 力 設 備	134	0.4	1,882	7.3	1,747	1,294.9
エレクトロニクス関連設備・装置	1,824	5.7	3,388	13.1	1,563	85.7
社会インフラ設備	599	1.9	198	0.8	△ 401	△ 67.0
そ の 他	958	3.0	1,196	4.6	238	24.8
合 計	**32,103**	**100.0**	**25,858**	**100.0**	**△ 6,245**	**△ 19.5**

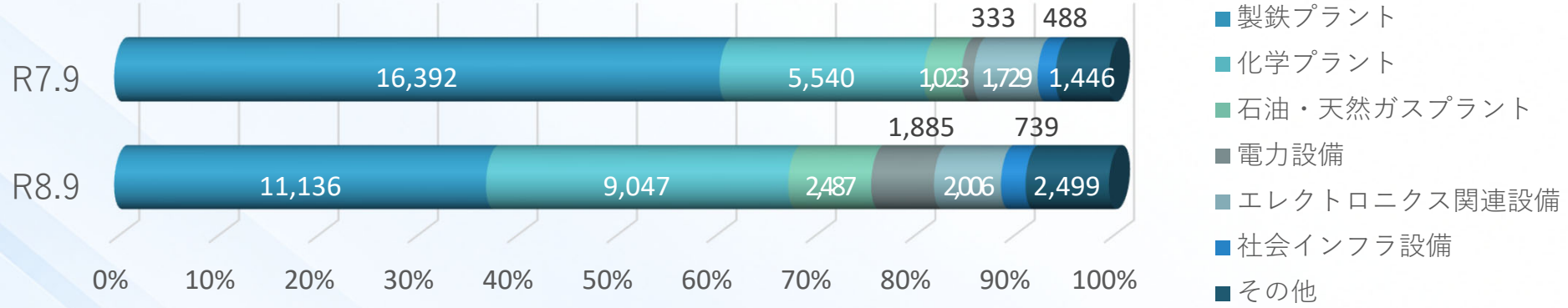


受注残高 工事種別（個別） 前期比

過去最高

（単位：百万円）

	R7.9		R8.9		増減(R8.9-7.9)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
製 鉄 プ ラ ン ト	16,392	60.8	11,136	37.4	△ 5,256	△ 32.1
化 学 プ ラ ン ト	5,540	20.6	9,047	30.4	3,507	63.3
石油・天然ガスプラント	1,023	3.8	2,487	8.3	1,463	143.0
電 力 設 備	333	1.2	1,885	6.3	1,552	466.1
エレクトロニクス関連設備・装置	1,729	6.4	2,006	6.7	276	16.0
社会インフラ設備	488	1.8	739	2.5	250	51.2
そ の 他	1,446	5.4	2,499	8.4	1,053	72.9
合 計	**26,953**	**100.0**	**29,802**	**100.0**	**2,848**	**10.6**



キャッシュフロー（過去３か年）

（単位：百万円）



02 令和9年3月期 業績予想

FINANCIAL RESULTS OVERVIEW

業績予想（連結） 前期比【増収減益】

■ 売上高：化学プラントにおける定期修理工事および製鉄・化学プラントにおける建設工事の増加に伴う増収の予想

■ 損　益：採算性の向上等による好転はみえるものの、人件費の高騰やエネルギー価格上昇の継続等、外部環境に不透明感を抱えており、減益の予想

（単位：百万円、率は対前期増減率）

	前期（R8.3）実　績 (a)	当期（R9.3）予　想 (b)	前期比 (b) - (a)		
			金 額	増減率	
売　上　高	53,693	55,700	2,006	3.7	2期ぶりの増収
営　業　利　益	1,778	1,730	△48	△2.8	2期連続の減益
経　常　利　益	1,692	1,440	△252	△14.9	2期連続の減益
親会社株主に帰属する当　期　純　利　益	1,254	910	△344	△27.5	2期連続の減益
1　株　当　た　り当　期　純　利　益	171.32円	124.24円	―	―	

※令和9年3月期の通期業績予想につきましては、令和８年5月13日付の「令和８年3月期決算短信」で公表いたしました当初の業績予想から修正しておりません。

令和9年3月期 業績予想

業績予想（個別） 前期比【増収減益】

【個 別】

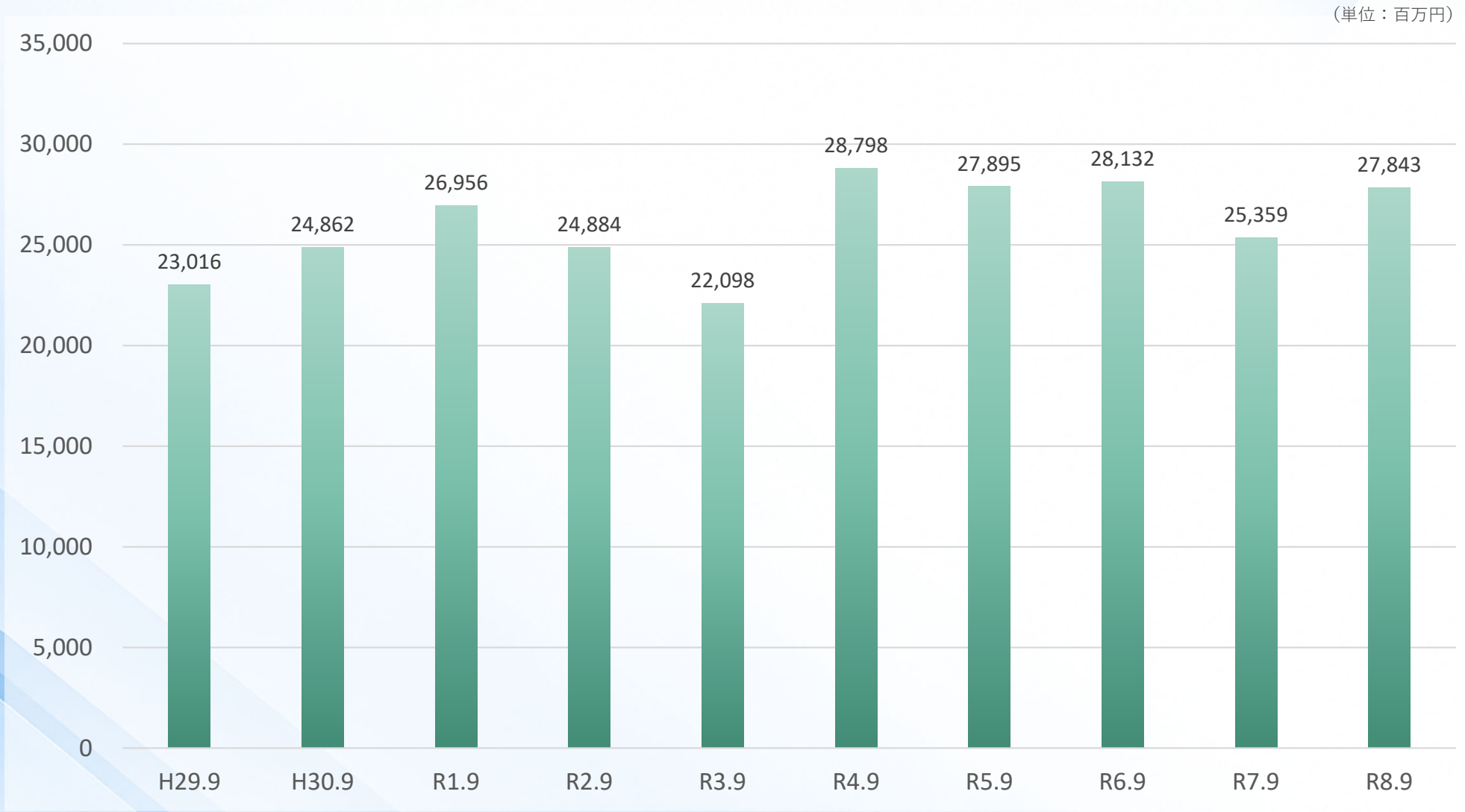
（単位：百万円、率は対前期増減率）

	R8.3 実績 (a)	当期（R9.3）予 想 (b)	前期比 (b) - (a)		
			金 額	増減率	
売上高	46,968	47,500	531	1.1	2期ぶりの増収
営業利益	1,828	1,620	△ 208	△ 11.4	2期連続の減益
経常利益	1,860	1,500	△ 360	△ 19.4	2期連続の減益
当期純利益	1,363	1,000	△ 363	△ 26.7	2期連続の減益
1株当たり当期純利益	186.19円	136.53	—	—	

03 appendix

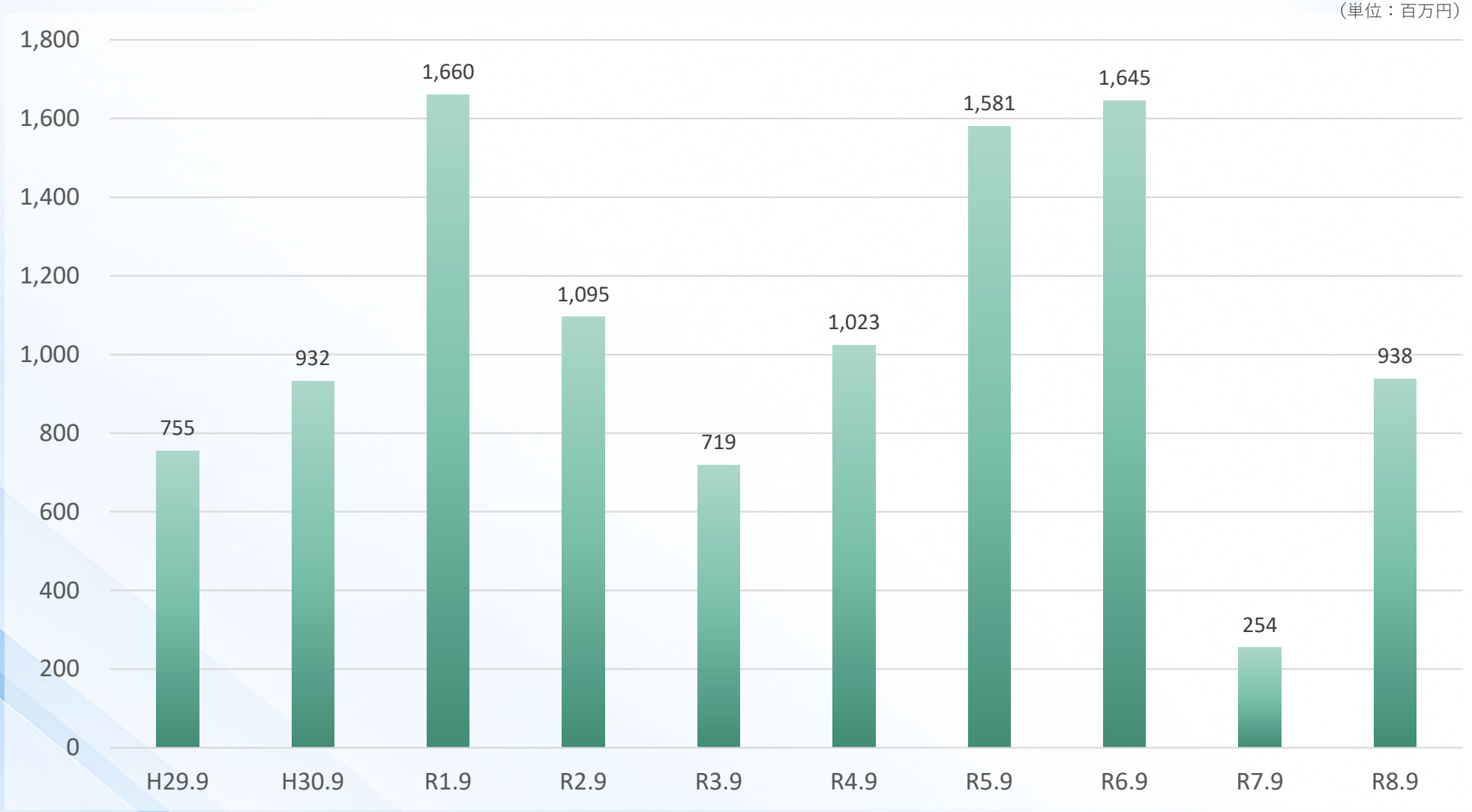
FINANCIAL RESULTS OVERVIEW

売上高推移（連結／H28.9～R7.9）

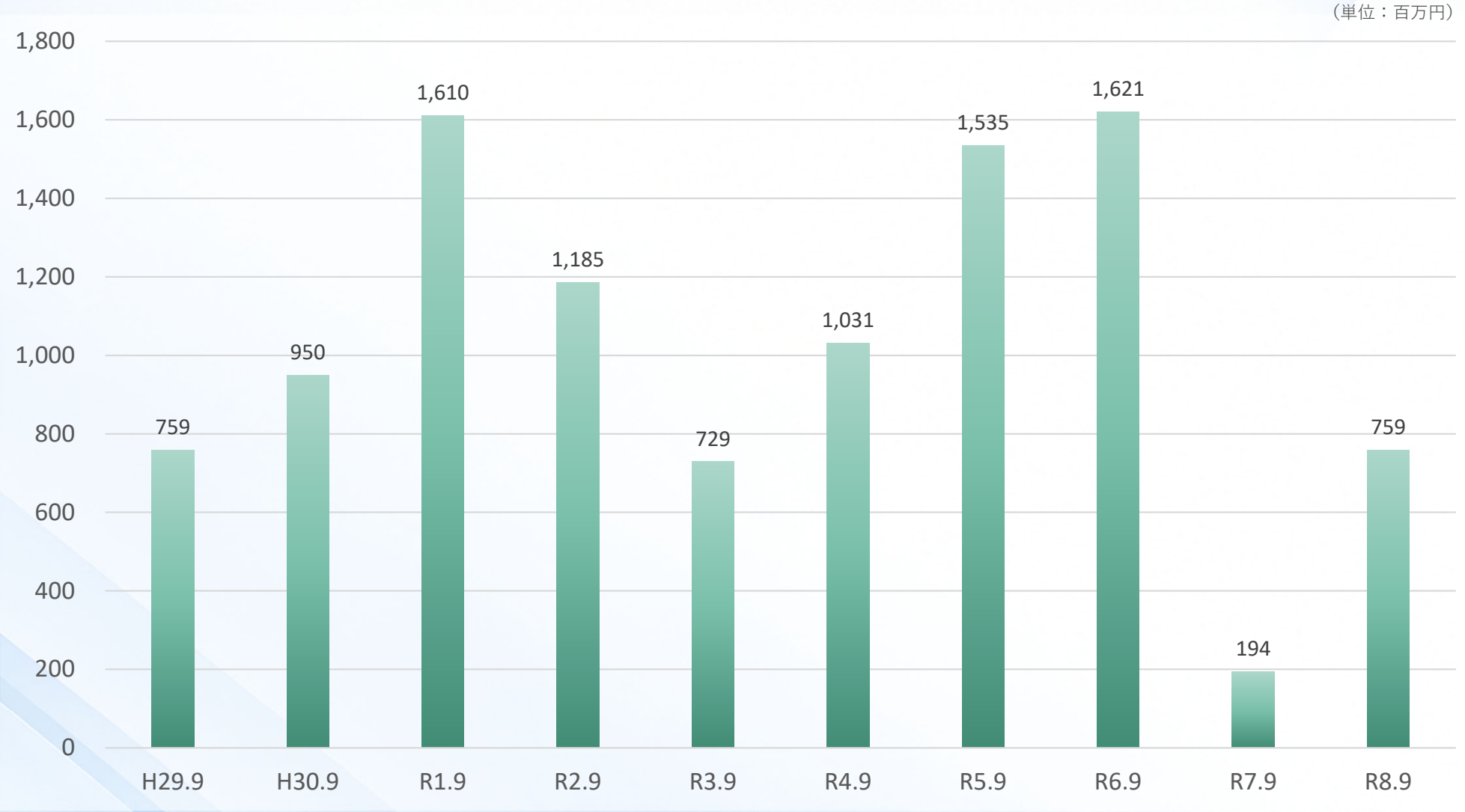


営業利益推移（連結／ H29.9～R8.9）

（単位：百万円）

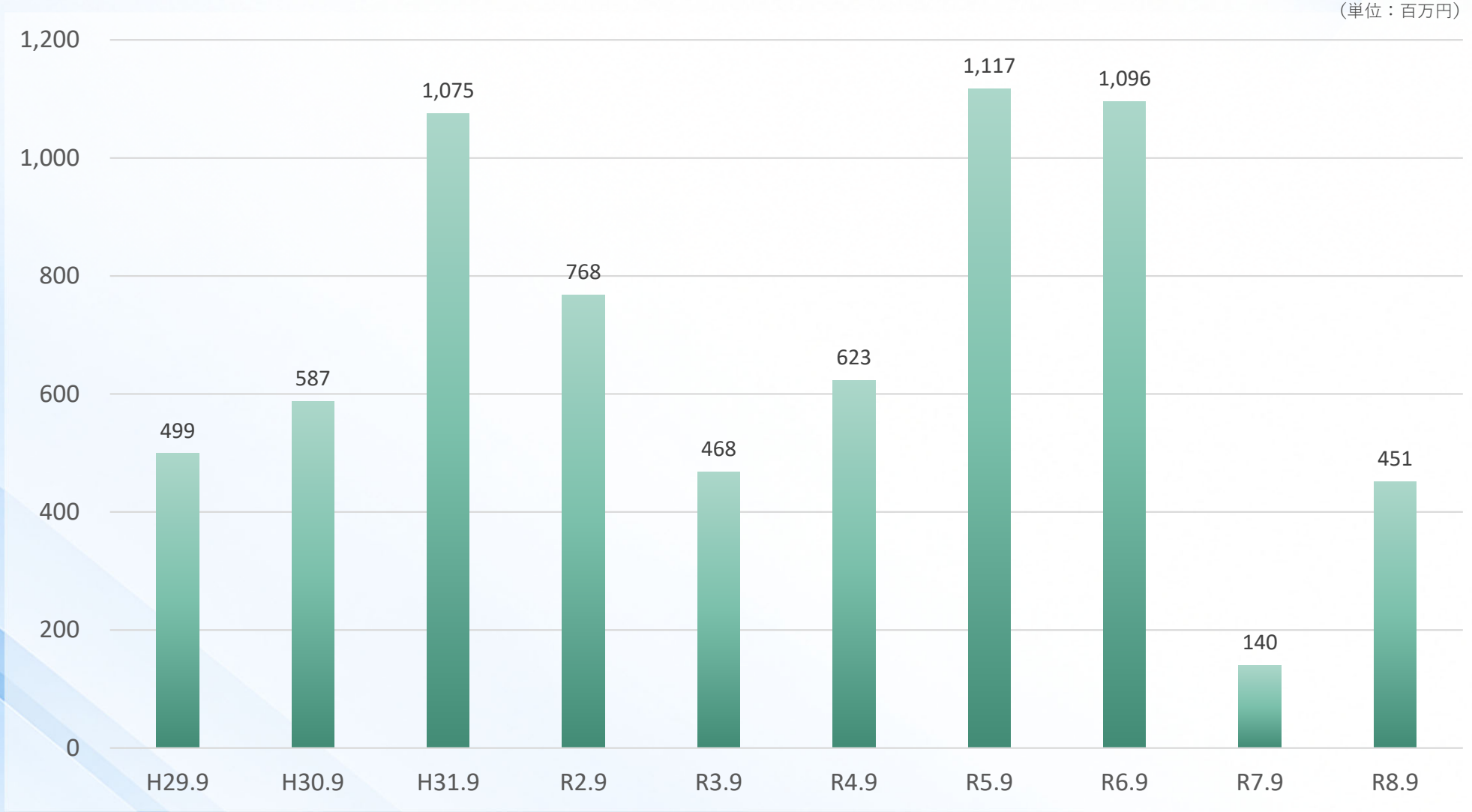


経常利益推移（連結／ H29.9～R8.9）



親会社株主に帰属する中間期純利益の推移（連結／ H29.9～R8.9）

（単位：百万円）

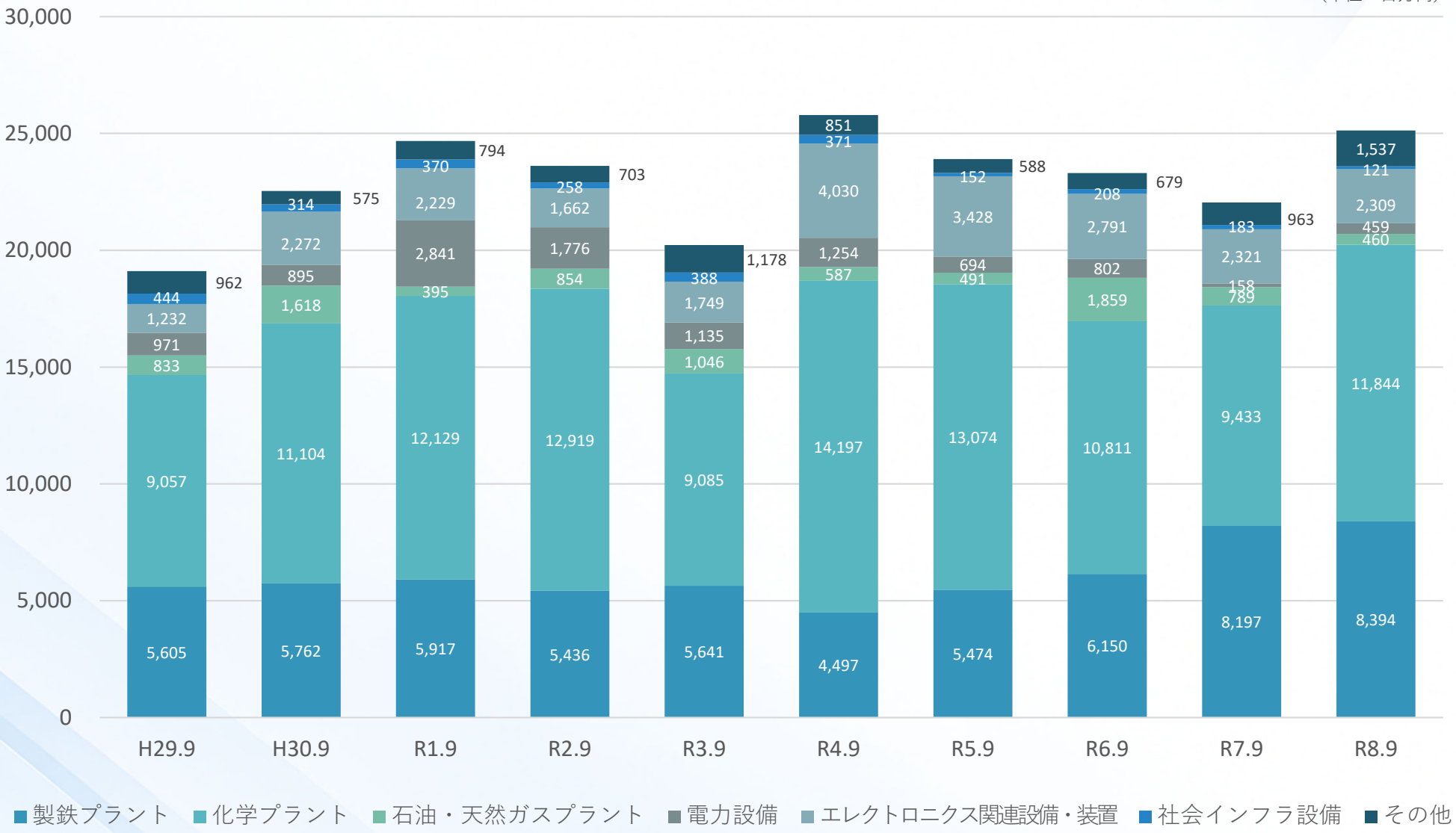


受注高と受注残高の推移（個別／ H29.9～R8.9）



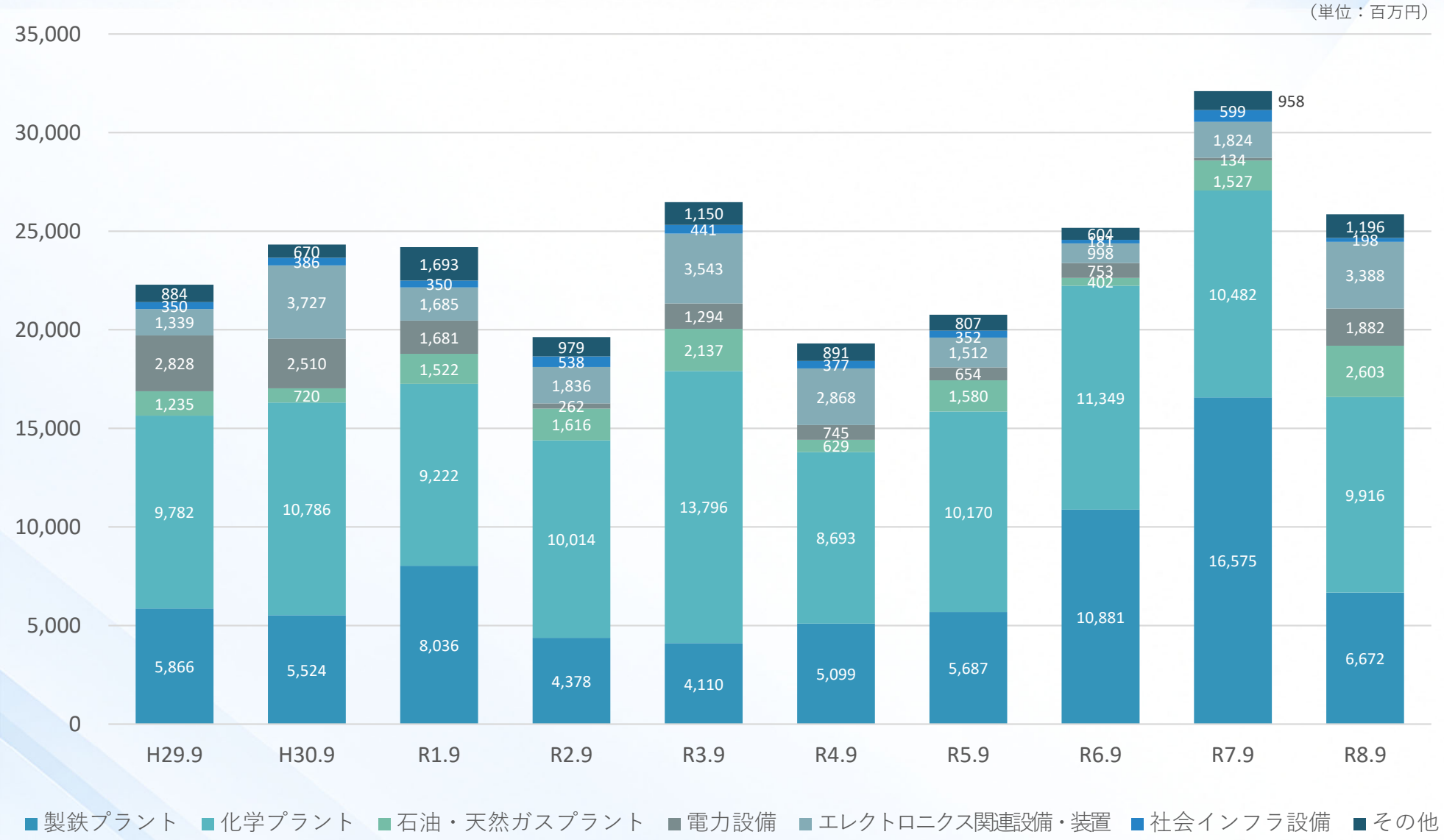
売上高 工事種別の推移（個別／ H29.9～R8.9）

（単位：百万円）



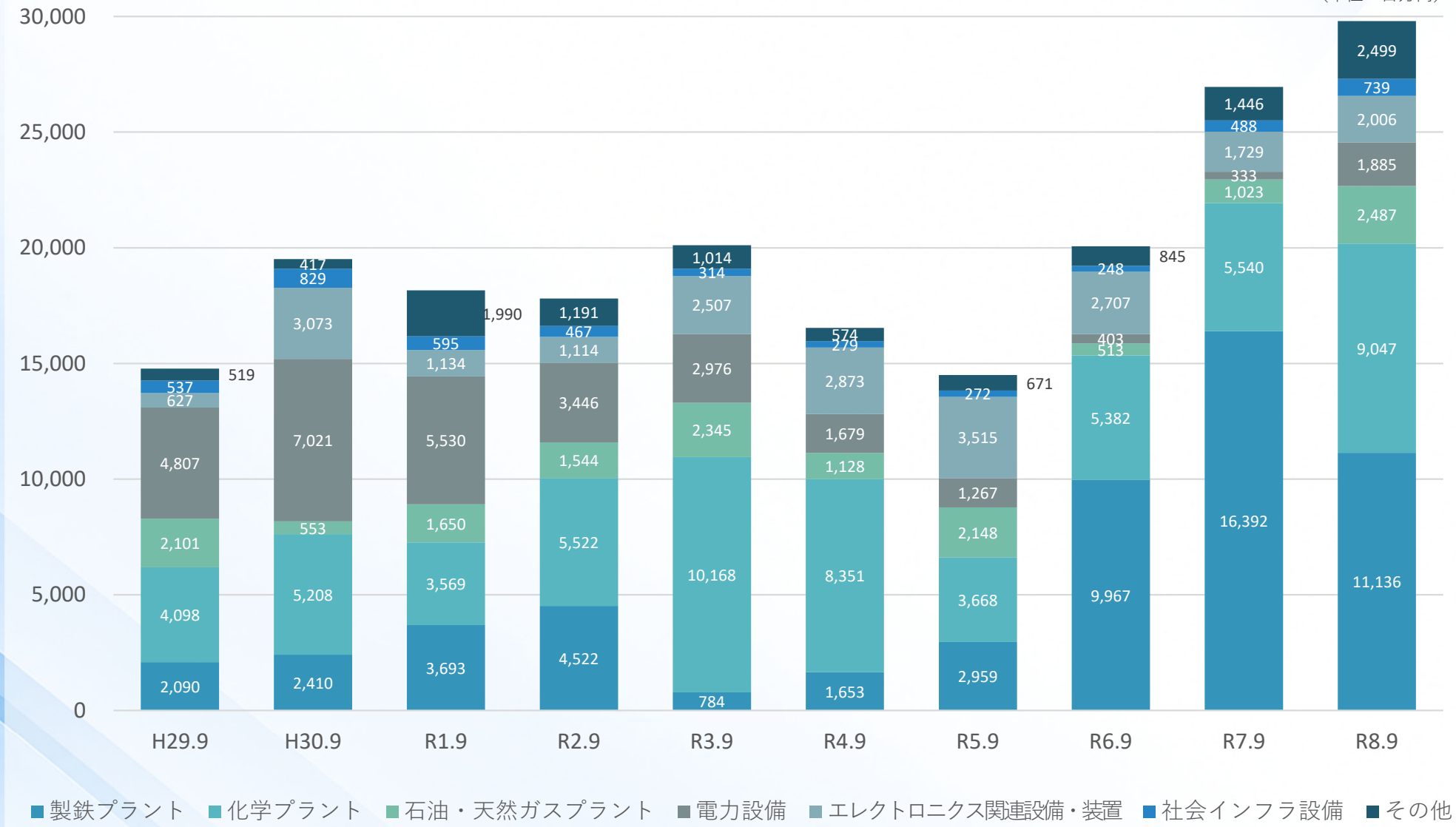
受注高 工事種別の推移（個別／ H29.9～R8.9）

（単位：百万円）



受注残高 工事種別の推移（個別／ H29.9～R8.9）

（単位：百万円）



04 Topics

FINANCIAL RESULTS OVERVIEW

常に前進と挑戦を

～「トンボ」を使ったシンボルマークを制定

このたびTAKADAグループは、2040年の創業100周年に向けた新たな挑戦と成長の象徴として「トンボ」をモチーフにしたシンボルマークを制定しました。

変化の激しい時代において常に前へ進み、俊敏に環境に適応するトンボの姿は、挑戦を恐れず着実に前進する当社の姿勢と価値観を表しています。このシンボルマークは当社の企業文化を内外に示すとともに、創業100周年に向けた歩みを象徴するものです。

今後もトンボのように常に前を向き挑戦を続け、革新と価値創造を推進してまいります。

トンボに込めた想い

前　進	前にしか飛ばない性質は、**常に前進する姿勢**として企業の挑戦と重なる
勝　虫	**成功や勝利**を象徴し、歴史ある企業の誇りを示す
軽快さ・機動力	**柔軟に事業を展開する**企業精神を反映
環境との調和	自然界の生き物であるトンボを用い、**持続可能な社会への貢献を象徴**する

未来のものづくり人材育成を支援
～高校生ものづくりコンテストへの協賛～

当社は昨年度より「高校生ものづくりコンテスト 沖縄県予選」の溶接部門に協賛し、協賛金の提供に加え、入賞者への表彰盾を贈呈しています。表彰盾には、出場した高校生自身が製作した作品の溶接ビードを3Dプリンターで再現したデザインを採用し、技術習得の成果を形として残しています。本年初めには、本活動に対して感謝状をいただきました。

当社は、若い世代に「ものづくり」や「溶接」の魅力を伝えることで、建設業界の将来を担う人材の育成に貢献するとともに、当社との新たな接点づくりにつなげてまいります。



溶接ビードを3Dプリンターで再現した表彰盾



感謝状をいただくと共に、当社「技能オリンピック全社大会」を見学していただきました

DX人材育成を推進
「TAKADA DX University」が社外評価を獲得

当社は、2040年に売上高1,000億円規模への成長を目指す中で、DXを重要な経営戦略の一つと位置付けています。その取り組みの一環として、2024年に「TAKADA DX University」を開設し、部門や職種の枠を超えた人材育成を推進しています。

本年度は第3期を開講し、デジタル技術や生成AIの活用に加え、デザイン思考、タイムマネジメント、ファシリティトレーニングなどを学ぶ実践型プログラムを展開しています。受講生は学びの成果を経営課題への提言としてまとめることで、業務改革や新たな価値創出につなげています。

このような取り組みが評価され、2026年2月には「People Innovation Awards 2026」において「チャレンジ賞」を受賞しました。

当社は今後もDX人材の育成を通じて、業務変革と企業価値の向上を推進してまいります。



社長を囲んでの第2期閉講式



People Innovation Awards 2026 表彰式にて